

防災便り

No.1

自主防災の基本

自助：自らの【命・家族・資産】は自ら守る

近助：防災は【近所の助け合い】が大切

共助：自主防災は【B 自治会】主体の自主防災隊

被害をできるだけ小さくする

情報発行：B 地区藤沢自治会 自主防災隊

=====

人口及び地震に対する豆知識

● 藤沢市の人口等

平成 26 年 1 月 1 日現在)

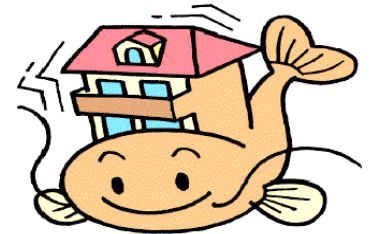
総人口	世帯総数	65 歳以上	高齢化率 (%)	*高齢者は 65 歳以上
421,233	185,322	92,366	21.93	*湘南大庭地区の高齢者率は 24.6%です。

B 藤沢防災も団塊世代がリタイヤし、年々高齢化が進んでいますのでその対策は必要です。
今後、B 藤沢自治会の正確な人口、世帯数、高齢化率の実態を把握し、大地震時の活動に役立てます。

● 首都圏でおきる地震の切迫性

首都圏が位置する南関東では、今後 30 年間に M7 級の地震が発生する確率は 78% と評価されています。(地震調査研究推進本部)
藤沢市のハザードマップでは、地震の規模は最大 M7.9 で震度は 6 強～6 弱を想定。

また、神奈川県東部地震では、震度 6 強の激しい揺れを想定。



1) 藤沢市に影響がある地震 (地震調査研究推進本部)

地震 (発生確率の高い 3 例)		マグニチュード (M)	地震発生確率 (30 年以内)
相模トラフ沿い	大正型関東地震	7.9 程度	ほぼ 0%～2%
	その他の南関東の M7 程度の地震	6.7～7.2 程度	78%程度
南海トラフ	南海トラフで 発生する地震	8～9 クラス	70%程度

*平成 7 年 1 月に発生した阪神・淡路大地震は、マグニチュード 7.3 という内陸直下の大地震でしたが、この地震は、30 年以内に起こる確率は 0.02～8%であったことが後でわかりました。

*平成 23 年 3 月の東日本大震災の藤沢市の震度は 4～5 弱とされています。遠藤地域でも電線が大きく揺れ、棚の食器類が落ちるなど、地震の揺れの恐ろしさを経験しました。

*マグニチュード (M) が 1 増えるとそのエネルギーは 32 倍になり、2 増えると 1,000 倍にもなります。また、M7 以上を大地震、M8 以上を巨大地震といえます。

2) 大地震は現在、“いつ起こっても不思議ではない時期”に入ってきています。

また、震度は大多数の方がかつて経験したことのない 6 クラスの揺れが想定されています。

このような大地震の発生を避けることは、現在の科学技術ではできません。

6 クラスの地震では建物の倒壊、火災の発生、人的被害などの災害が発生する恐れがあります。

これらの災害に対応するためにも地域の現状を把握する必要があります。

資料提供：睦自治会